

子どもの病院食の見直し

鈴木 千恵子*

要約：大学病院、小児病院、一般市中病院、国立病院の中から合計20施設を選び調査し、問題点を浮きぼりにして検討するための調査表配布段階であるため、平成2年10月に小児総合医療施設栄養業務連絡会を発足させるにあたり、小児総合医療施設協議会に加盟している21施設を対象に基礎資料として調査を行ったので回答のあった19施設の集計結果を本研究の一助とすべく報告する。

見出し語：小児総合医療施設栄養業務連絡会、栄養業務運営方法、食材料費

緒言：本研究は、成人の病院食が各方面から見直されつつある現状で子供の病院食の現状を把握し、将来への方向づけを探ることを目的とするが、今回報告する調査については、小児総合医療施設の栄養業務の実態を把握することを目的としたものである。

1 調査対象

小児総合医療施設協議会に加盟している施設21のうち回答のあった19施設である。

2 方法

アンケート方式による。

3 調査結果

- 1) 経営主体は、国立 3、自治体 15、
その他 1施設

2) 栄養業務運営方法

直営	9 (47.4%)	全面委託	5 (26.3%)
一部委託	5 (26.3%)		
食器洗浄	2 (10.5%)		
下膳、洗浄	1 (5.3%)		
下膳、洗浄、調乳	1 (5.3%)		
調乳	1 (5.3%)		

3) 給食の内訳

ミルク	21.1%
一般食	29.5%
幼児食、離乳食を含む特別食	49.4%
(離乳食)	10.2%

* 国立小児病院 栄養管理室長

- 4) 食材料費の決め方
 国や県で指示されている施設 12 (63.2%)
 保険点数給食料のうちの20~50%の施設
 7 (36.8%)

平成2年度 給食料	137点
基準給食加算	47点
合計	184点

- 1人1日当たりの食材料費
 各食とも同じ施設 13 (68.4%)
 ミルクと食事が区分されている施設
 6 (31.6%)
- 調査した平成2年6月の平均消費額
 食材料費が均等化されている施設では、1
 人1日 738³⁰で保険料の40.1%。ミルク
 と食事が区別されている施設では、ミルク
 代は 137円。保険料の7.4%。食材料
 費は、826³⁰で保険料の44.9%。

5) 食事回数と時間

5回食	14施設	(73.7%)
4回食	4施設	(21.1%)
3回食	1施設	(5.2%)
朝食	7:00~7:30	11 (57.9%)
	7:30~8:00	5 (26.3%)
	8:00	3 (15.8%)
10時のおやつ	有	15 (78.9%)
	無	4 (21.1%)
昼食	11:20~11:45	3 (15.8%)
	12:00~12:30	16 (84.2%)
3時のおやつ	有	9 (52.6%)
	無	10 (47.4%)
夕食	16:00~17:00	12 (63.2%)
	17:00~18:00	7 (36.8%)

夜食	有	11 (57.9%)
	無	8 (42.1%)
	18:00~19:00	10 (52.6%)
	20:00~	1 (5.3%)

6) 盛り付け

中央盛り付け	15 (78.9%)
病棟盛り付け	4 (21.1%)

7) 行事食

年間14回 誕生会を含まない。

8) おやつ

手作りが主体	1 (5.3%)
既製品が主体	8 (42.1%)
半々	10 (52.6%)

9) 食器

メラミン	17 (87.5%)
セラミックス陶器	2 (10.5%)

平均30種類保有

湯のみ、はし、スプーン

患者持参	3 (15.8%)
病院で用意	16 (84.2%)

10) 適温給食

全施設が対応

電子レンジ、保温庫、保温トレー、保温
 配膳車 3施設

11) 調乳室

完全個室	17 (89.5%)
その他	2 (10.5%)

ミルクの殺菌法

終末殺菌	11 (57.9%)
無菌操作法	8 (42.1%)

12) ミルクの選定法

一社固定	3 (15.8%)
------	-----------

数ヶ月交替	11	(57.9%)
1年交替	5	(26.3%)
13) 調乳方法		
分注量 個人対応	16	(84.2%)
一定量の取り決め	3	(15.8%)
濃度 個人対応	17	(89.5%)
一定量の取り決め	2	(10.5%)
14) 配乳方法		
1日分まとめて		
午後1回	16	(84.2%)
3食毎に	2	(10.5%)
その他	1	(5.3%)
15) 夜間入院の場合		
予備で対応	14	(73.7%)
看護婦がつくる	4	(21.1%)
調理師がつくる	1	(5.2%)
16) 食品の外部からの持ち込み		
禁止し予備で対応	10	(52.6%)
原則として禁止	7	(36.8%)
特に考慮していない	2	(10.5%)
17) 喫食調査実施状況		
毎日実施している	13	(68.4%)
時々実施している	5	(26.3%)
実施していない	1	(5.3%)
18) 嗜好調査実施状況		
実施している	17	(89.5%)
実施していない	2	(10.5%)
19) 懸案事項		
(1) 食事基準の見直し	5	(26.3%)
(2) 栄養指導の充実	5	(26.3%)
(3) 個人対応のシステム化	3	(15.8%)
(4) 電算利用	3	(15.8%)

- (5) 夕食時間の改善
- (6) 委託業務の見直し
- (7) 業務全体の見直し
- (8) ミルク以外の経腸栄養剤の調整分担

4 考察

調査の結果、栄養業務の運営方法は一部委託を含めた委託方法が過半数をしめ、大きく変わりつつあることが得られた。食材料費の決め方も保険給食料の枠内で低値は20%から、高値は50%と大差があった。成人の病院食と異なり、未熟な消化機能への対応と情緒面への配慮から殆どの施設でおやつ工夫がなされていたが、食事時間と回数には、バラツキが見られた。適温給食への工夫や季節を感じとる行事食等、全施設で実施されていた。

調乳室は完全個室が17施設 89.5%でミルクの殺菌方法は、終末殺菌が11施設 57.9%、無菌操作法 8施設 42.1%で終末殺菌法がやや高値であった。ミルクの選定法として、数ヶ月および1年交替が84.2%と交替制の施設が多かった。調乳法として個人対応が17施設 89.5%と高値であった。

食品の外部からの持ち込み禁止は、17施設 89.5%。喫食量調査は、殆どの施設で実施されていた。

懸案として食事基準の見直し、栄養指導の充実、多様化する個人対応食にどのように取り組むか、そのシステム化を必要とされていることが得られた。

5 結語

小児総合医療施設においても、食材料費および食事やおやつの回数と時間などの栄養業務の

基本にバラツキがめだち、各施設で担当者が試
行錯誤を重ねながら業務にたずさわっている現
在、小児病院食の方向づけを検討する必要があ
ると思^{われ}える。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:大学病院、小児病院、一般市中病院、国立病院の中から合計 20 施設を選び調査し、問題点を浮きぼりにして検討するための調査表配布段階であるため、平成 2 年 10 月に小児総合医療施設栄養業務連絡会を発足させるにあたり、小児総合医療施設協議会に加盟している 21 施設を対象に基礎資料として調査を行ったので回答のあった 19 施設の集計結果を本研究の一助とすべく報告する。